

第29回日本臨床精神神経薬理学会
プログラム

特別講演

特別講演

10月11日(金) 15:20 ~ 16:20 第13会場(501)

座長：近藤 毅 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

SL

精神科薬物治療のこれまでの到達点と解決すべき課題

染矢 俊幸 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

会長招待講演

会長招待講演

10月11日(金) 16:30 ~ 18:10 第1会場(メインホール)

座長：吉村 玲児 産業医科大学精神医学教室

IL-1

Dimensional Treatment of Bipolar Disorder

Andrea Fagiolini Professor of Psychiatry and Chairman, Chief of Medical Services, and Residency Training Director of the Department of Mental Health and Division of Psychiatry, University of Siena School of Medicine, Italy

IL-2

Brain-in-Flame: effects of neuroinflammation on cognitive function across psychiatric disorders

Bernhard T. Baune Department of Psychiatry and Psychotherapy, University of Münster, Münster, Germany,
Department of Psychiatry, Melbourne Medical School, The University of Melbourne, Melbourne, Australia,
The Florey Institute of Neuroscience and Mental Health, The University of Melbourne

JSCNP

会長招待講演

第19回臨床精神神経薬理学セミナー

第19回臨床精神神経薬理学セミナー

10月12日(土) 10:30～12:10 第2会場(411+412)

日本臨床精神神経薬理学会 第19回臨床精神神経薬理学セミナー

オーガナイザー：下田 和孝 獨協医科大学精神神経医学講座
司会：渡邊衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
鈴木 利人 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック

日本臨床精神神経薬理学会専門医制度委員会は、臨床精神神経薬理学に関する優れた学識と高度の技術および倫理観を備えた臨床精神神経薬理学専門医を養成し、良質の医療を提供することを目的に、「臨床薬理セミナー」を開催してまいりました。第19回となる今回は、「統合失調症」、「不安障害」、および「アルコール依存」がテーマです。

専門医申請及び更新を目指す医師に限らず、生涯学習の一環として受講を希望される会員(当日会員も可)はどなたでもご参加いただけます。受講された方には専門医申請及び更新の際、単位として必要となる受講証が発行されます。奮ってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

CNS-1 統合失調症治療における抗精神病薬の投与法～ドグマとエビデンス～

竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

CNS-2 不安症の薬物療法

大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科

CNS-3 アルコール依存症の最近の治療の変化

齋藤 利和 幹メンタルクリニック

JSCNP

第19回臨床精神神経薬理学セミナー

臨床試験 - 倫理教育セミナー

臨床試験-倫理教育セミナー

10月12日(土) 14:50 ~ 16:50 第2会場(411+412)

日本臨床精神神経薬理学会 臨床試験-倫理教育セミナー

オーガナイザー・司会：井上 猛 東京医科大学精神医学分野

日本臨床精神神経薬理学会は、精神神経用剤(向精神薬)の臨床試験を適正に実施するために必要な基礎知識の普及を目的として、本セミナーを開催してまいりました。

本セミナーでは、まず加藤先生に「RCTの立案・実践・論文化」について、先生のGUNDAM研究などのRCTをベースとした薬理遺伝研究を例に、具体的な実施方法についてご講演いただきます。ついで、そのような臨床研究を行う際に、最近制定された臨床研究法をどのように運用していくとよいのかについて、小笠原先生に「臨床研究法の概要と運用上の問題点」というテーマでご講演いただきます。臨床研究法にもとづいて、学会発表や臨床研究をどのような手続で行うとよいのか、具体的な手続、必要な手続・条件などについてご解説いただきます。これらがわからないため、学会発表や論文発表が最近著しく低調となっています。学会で症例報告やケースシリーズ、RCTを発表しようとする、どのような承認をクリアする必要があるのかなど、本セミナーで理解を深めていただきます。

なお、「治験登録医」、「創薬・育薬認定師」は平成30年度定時評議員総会・会員総会において廃止が決定され、平成31年4月23日本学会ホームページでもお知らせしました。旧「治験登録医」、「創薬・育薬認定師」の資格をお持ちの会員は平成31年度～35年度の期間、臨床試験-倫理教育セミナーを無料で受講できます。

CLETS-1 RCTの立案・実践・論文化；その臨床疑問を解決しましょう

加藤 正樹 関西医科大学医学部医学科精神神経科学講座

CLETS-2 臨床研究法の概要と運用上の問題点

小笠原一能 名古屋大学大学院医学系研究科精神医療学寄附講座

JSCNP

臨床試験・倫理教育
セミナー

シンポジウム

シンポジウム1

10月11日(金) 8:20 ~ 10:20 第2会場(411+412)

産業精神薬理学2019

Occupational psychopharmacology in 2019

オーガナイザー・座長：吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室
座長：新開 隆弘 産業医科大学医学部精神医学教室

向精神薬を服用しながら仕事をしている人は多い。昨今精神科薬物療法に関するエビデンスやガイドラインがいくつも報告されている。しかし、実際の患者さんを目の前にした場合、そのガイドラインに示されている結果を適応することが果たして妥当であるのか迷うことが多い。もちろん、論文やガイドラインが照準を定めている対象群と自分の患者の類似や相違点を考えてその治療法適応性の外的妥当性を検討すればよい。しかし、就労中の患者の薬物療法に関する知見は非常に少ないのが現状であるし、患者がどのような仕事をどのくらいの時間行っているのかなどの情報も薬物療法に影響する。従って、仕事に就く、仕事を続けるという観点から薬物療法を再考察する必要がある。本シンポジウムでは、就労や産業医学から精神疾患の薬物療法を議論したい。

S1-1 職場におけるうつ病の理解と産業医との連携

新開 隆弘 産業医科大学医学部精神医学教室

S1-2 うつ病治療の産業精神薬理学

吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

S1-3 自動車運転に関する産業精神薬理学

岩本 邦弘 名古屋大学大学院医学系研究科発達老年精神医学分野

S1-4 不安障害の産業精神薬理学

池ノ内篤子 産業医科大学医学部精神医学 / 和歌山つくし医療・福祉センター

統合失調症薬物治療ガイドライン改訂版の狙いと範囲

Aims and scope for schizophrenia pharmacotherapy guidelines revised edition

オーガナイザー：古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座
 座長：中込 和幸 国立精神・神経医療研究センター
 染矢 俊幸 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

精神科薬物療法については、臨床家ごとのばらつきが大きく、よりよい医療を普及させることが必要とされている。抗精神病薬の単剤治療を行うことが海外の各種ガイドラインで推奨されているが、本邦では諸外国と比較して突出して抗精神病薬の多剤投与が多く薬剤数が多い。抗精神病薬の多剤併用率が65%程度であり、抗パーキンソン薬、抗不安薬/睡眠薬、気分安定薬の併用率もそれぞれが30-80%と高い。そして、2014年には、向精神薬の多剤処方に対する診療報酬の減額がなされた。本邦においては、統合失調症の薬物治療ガイドラインが2015年9月に日本神経精神薬理学会より発表された。このガイドラインは、精神科分野においては本邦初のMinds法を用いたエビデンスに基づいたもので、現在CNPとNPが合同で統合失調症薬物治療ガイドライン改訂版が作成されている。本シンポジウムでは各パートの進捗状況を報告する予定である。

S2-1 ガイドラインの臨床現場での位置づけ

橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

S2-2 統合失調症薬物治療ガイドライン2020 概要

稲田 健 東京女子医科大学医学部精神医学講座

S2-3 ガイドライン以外の重要な問題

古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

S2-4 基本的臨床疑問(1)

竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S2-5 基本的臨床疑問(2)

田近 亜蘭 京都大学医学部附属病院精神科神経科

S2-6 治療抵抗性統合失調症

嶽北 佳輝 関西医科大学精神神経科学教室

S2-7 統合失調症薬物治療ガイドライン改訂版：特殊な病態

三浦 至 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

S2-8 統合失調症薬物治療ガイドラインの改訂を目指して 抗精神病薬の副作用に関する章の方向性

坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室

S2-9 統合失調症の睡眠障害に着目した重要臨床課題

高江洲義和 杏林大学医学部精神神経科学教室

S2-10 妊娠中、授乳中の統合失調症女性における抗精神病薬治療

渡邊 央美 独立行政法人医薬品医療機器総合機構医薬品安全対策第一部

最先端技術から期待される近未来精神科治療-リキッドバイオプシー、スマートナノマシン、DNA脱メチル化-
Near-future psychiatric treatment expected from state-of-the-art technology
-Liquid Biopsy, Smart Nanomachine and DNA Demethylation

オーガナイザー・座長：加藤 正樹 関西医科大学医学部医学科精神神経科学講座
座長：馬場 元 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

精神疾患における薬物療法は、脳実質のサンプリングが事実上不可能であり、臨床上有用なバイオマーカーが無い点、薬物は脳血液関門を通過する必要があるため高分子なものや遺伝子治療が不可能な点、環境要因が大きく影響しているが、その環境要因と関連するメチル化を修正する方法が明らかになっていない点などが限界である。近年、これら問題点に関する研究が発展し、解決に向かう出口が見えつつある。本シンポジウムは、精神科の今後の薬物療法に希望をもたらす、それら最先端技術の現状と精神科での応用の可能性に関して広く知っていただくのが狙いである。

S3-1 ゲノム領域特異的なDNAメチル化状態の制御と近未来精神科治療への希望

鈴木 治和 国立研究開発法人理化学研究所生命医科学研究センター

S3-2 中枢神経系疾患治療を指向した血液脳関門を効率的に通過するスマートナノマシンの開発

安楽 泰孝 東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻 /
川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター

S3-3 脳リキッドバイオプシー (脳由来エクソソーム解析) による精神神経疾患の予防、診断、治療

滝川 修 国立長寿医療研究センター (NCGG) / 日本医療研究開発機構 (AMED)

双極性障害の薬物療法アップデート2019

Update 2019 of pharmacotherapy for bipolar disorders

オーガナイザー・座長：寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座
座長：井上 猛 東京医科大学精神医学分野

双極性障害の薬物療法は気分安定薬のみならず、非定型抗精神病薬や新規抗うつ薬によるところが大きい。さらに最近では、光線療法や暗闇療法ないしサングラス療法も注目されている。このようなことから、定期的に新規参入薬物や新規治療法を従来の薬物療法とともに検討し、エビデンスを整理し直し、治療法の内容を再検討する必要が生じる。このような必要性から2019年度版として、その道の専門家にアップデートをしてもらう。

S4-1

躁病の薬物療法

井上 猛 東京医科大学精神医学分野

S4-2

不安性苦痛と混合性うつ病と双極性

武島 稔 明心会柴田病院 / 東京医科大学精神医学分野

S4-3

うつ病、維持期の薬物療法アップデート

寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

S4-4

双極性障害に対する光線療法と暗闇療法

平川 博文 大分大学医学部精神神経医学講座

各診療科の視点から、てんかんを多角的に評価する
 ～てんかん診療のスキルアップを目指して～

From the viewpoint of each clinical department, we evaluate epilepsy from different angles
 ～ For skill up of the epilepsy medical treatment ～

オーガナイザー・座長：清水 秀明 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学
 座長：上野 修一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学

てんかん診療は、小児科、脳外科、神経内科、精神科の4つの診療科にまたがる疾患である。小児のてんかんは、成人とは異なる特徴的な臨床症状や脳波所見が認められる。また、てんかん発作のコントロールが薬物治療で困難な場合、外科治療の適応を検討することになる。さらに、てんかん発作と見誤りやすい臨床症状を呈する疾患として、失神や心因性非てんかん発作などが挙げられる。このように、てんかん診療の幅は広く、各診療科との連携が不可欠であるが、その多彩な症状から臨床的な評価が難しく、他科へのコンサルトを行うべきか判断に迷うケースも少なくない。今回のシンポジウムでは、各診療科の視点から、てんかんを多角的に評価し、てんかん診療のスキルアップを目指したい。

S5-1

小児てんかんの特徴

重松 秀夫 独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

S5-2

てんかんの外科適応について

近藤 聡彦 独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

S5-3

神経内科の立場から

溝渕 雅広 中村記念病院神経内科・てんかんセンター

S5-4

てんかんと精神症状

西田 拓司 独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

市販後の有効性・安全性評価に関する諸問題

Practical issues on postmarketing evaluation of effectiveness and safety

オーガナイザー・座長：稲垣 中 青山学院大学教育人間科学部 / 青山学院大学保健管理センター
座長：中林 哲夫 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

新規医薬品の製造・販売が承認される際には、第I相から第III相に至る一連の市販前臨床試験においてその有効性と安全性が検証される。しかしながら、市販前臨床試験は十分な安全性情報を得る上で十分なサンプルサイズが確保されているとは言い難い上に、対象患者を臨床試験に組み入れるに際してさまざまな選択基準が設けられるため、一般化可能性の面で限界があり、有効性と安全性について未検証の部分が存在する。したがって、新規医薬品の有効性と安全性については市販前臨床試験のみでは不十分であり、市販後もさまざまなルートから得られるデータに基づいて情報を更新してゆく必要がある。

そこで、今回のセッションでは、今後わが国で向精神薬の有効性・安全性評価を行うに際して課題となるであろうトピックから、健康関連QOL評価、メタ解析、レセプトを用いた薬剤疫学研究の3点について議論する。

S6-1 精神科領域における健康関連QOL評価に関する諸問題

能登 真一 新潟医療福祉大学リハビリテーション学部

S6-2 メタ解析を用いた有効性・安全性評価の有用性と限界

岸本泰士郎 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S6-3 レセプトデータを用いた向精神薬の使用実態の解析

吉村 健佑 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター

S6-4 リアルワールドデータを活用した医薬品安全性評価と課題

宇山 佳明 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

重度かつ慢性の特徴を持つ統合失調症および治療抵抗性統合失調症の治療戦略と将来の医療体制

Treatment strategies for severe and chronic, and treatment resistant schizophrenia, and social and medical changes based on the strategies

オーガナイザー・座長：伊豫 雅臣 千葉大学大学院医学研究院精神医学
座長：岩田 仲生 藤田医科大学医学部精神神経科学講座

我が国では、精神科病床数の多さが問題であり、その中でも社会的入院の多さが目立っている。同時に、重度から慢性状態の統合失調症が、全国で、約8万5000人以上いると推定されている(厚労省研究：安西班)。また、ドーパミン過感受性の問題で、我が国の抗精神病薬の多剤併用、オーバードーズが指摘されており、また、それも治療反応性を悪化させ難治例を、作り出している。ここで我々は、治療抵抗性の、あるいはそうならないための戦略を大まかには、確立して学会から、発表するべきではないのか、統合失調症ガイドラインの改定も控えているが、その中でも、特別な章をさして、特殊な治療も含めて(ECT, クロザピン, LAI等)、戦略を確立すべきではないかと考える。もし、それらが成功したとした場合、厚労省の試算する、待機患者は、減少し、現在までの古典的な、精神科病院の役割は、変化するであろうし、地域での、精神障害者の生活も、変化していくだろう。上記を考えることは、精神障害者の将来の社会システムを構築していくことと同義だと考えられる。

S7-1 治療抵抗性統合失調症の薬物治療ガイドライン

松井 佑樹 医療法人明心会仁大病院

S7-2 治療抵抗性統合失調症臨床に役立つエビデンス

嶽北 佳輝 関西医科大学精神神経科学教室

S7-3 治療抵抗性統合失調症臨床に役立つロウ・クオリティ・エビデンス

諏訪 太郎 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学教室(精神医学)

S7-4 治療抵抗性統合失調症患者におけるドーパミン過感受性精神病について

金原 信久 千葉大学社会精神保健教育研究センター

これからの、抗うつ薬を用いたうつ病治療の展望

Perspectives of future treatment strategies for depressive disorders with new and present antidepressants

オーガナイザー・座長：近藤 毅 琉球大学大学院精神病態医学講座
座長：堀 輝 産業医科大学医学部精神医学教室

日本のうつ病を取り巻く状況は、変遷の一途をたどり、社会的な視点から見ても、現代の社会潮流の流れが大きく影響していると考えざるを得ない。重度の内因性うつ病の減少、メランコリアの軽症化、現代型といわれるうつ病の多様性、社会不安障害及び不安障害がベースになる軽度のうつ病の増加、自己愛性パーソナリティとの表現系としてのうつ病、広汎性発達障害など、このように大いなる多様性に満ちた状態である。ところで、抗うつ薬の進歩もめざましく、SSRI,SNRI,NaSSA,等の新規の薬物療法が1980年代後半から、現在まで大きな流れを作っており、治療における中心的な薬剤となっている。今後、これらの中心的な薬剤は、特許が切れ、おそらく全てがジェネリックに置き換えられ、現在sh上で臨床試験が行われている、全く新規の薬理機序を持った薬剤が、出現してくるのも間もないだろう。一体そういう時代の流れに合って、今後の、本来望ましい薬物療法とは何か。まだ、あまり、確定的な強いエビデンスも出ていない中で、今の時点で、それらをディスカッションすることは有意義ではないかと思われる。

S8-1 うつ病の急性期と再発予防における薬物療法 -単極性と双極性の違い-

三浦 智史 国立病院機構小倉医療センター精神科

S8-2 抗うつ薬治療を再考する -残遺症状や再燃・再発を呈した場合-

中村 敏範 信州大学医学部附属病院精神科

S8-3 勤労者うつ病患者における抗うつ薬の認知機能・社会認知機能改善効果

堀 輝 産業医科大学医学部精神医学教室

S8-4 非内因性うつ病(いわゆる「現代うつ」)および不安障害・発達障害合併例における抗うつ薬治療の意義

加藤 隆弘 九州大学 大学院医学研究院 精神病態医学

指定討論者 寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

発達障害をめぐる周産期の諸問題

Pregnancy and autism spectrum disorder

オーガナイザー・座長：鈴木 利人 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック
座長：内村 直尚 久留米大学医学部神経精神医学講座

近年、精神疾患合併妊婦の割合が増加しており、周産期メンタルヘルスに関する病院機能の充実が求められている。これまで気分障害や統合失調症の妊娠・出産への対応や産後うつ病に対する対策が上げられる機会が多かった一方で、臨床現場では発達障害の母親の妊娠・出産に遭遇することも稀ではない。本シンポジウムで「発達障害と周産期」をキーワードとして、それにかかわるさまざまな課題を提示した。第一に発達障害の母親の妊娠・出産における諸問題を取り上げその課題と対策について議論する。第二に発達障害の母親が内服する治療薬の母体と胎児への影響についてここ数年蓄積されつつあるデータについて紹介する。第三に視点を変えて向精神薬内服中の母親から出生した児の機能奇形、すなわち発達障害出現への影響について考察する。そして最後にこれらの臨床的知見に関わる基礎的研究として、マウスを用いた動物実験のデータを紹介する。

S9-1 ライフステージに応じた発達障がいのある方への支援における妊娠・出産・子育て

山下 洋 九州大学病院子どものこころの診療部

S9-2 発達障害治療薬の母体と胎児への影響

根本 清貴 筑波大学医学医療系精神医学

S9-3 向精神薬による児の機能奇形(発達障害など)への影響

伊藤 賢伸 順天堂大学医学部精神医学講座

S9-4 バルプロ酸を曝露した動物モデルにおける機能奇形とその改善療法

田熊 一敞 大阪大学大学院歯学研究科薬理学教室 / 大阪大学大学院連合小児発達学研究所 / 大阪大学大学院薬学研究科薬物治療学分野

MUSUBI-J研究2019

Message from MUSUBI-J study

オーガナイザー・座長：吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

MUSUBI-J研究は日本臨床精神神経薬理学会と日本精神神経科診療所協会との合同プロジェクトであり現在も進行中である。本プロジェクトの目的は、日本でのリアルワールド精神科薬物療法の実情や患者さんの就労状況などを明らかにすることで、今後の精神科薬物療法に生かすことにある。その結果はすでにいくつかの学会のシンポジウムで発表している。今回の[MUSUBI-J2019]では、これまでの研究結果より未発表データを中心に発表する。

S10-1 双極性障害外来患者における自殺性(suicidality)に関するリスク因子

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター / 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

**S10-2 双極性障害患者におけるRapid Cycling群 vs 長期寛解群の特徴と1年後の転機
MUSUBI研究より**

加藤 正樹 関西医科大学医学部医学科精神神経科学講座

S10-3 双極性障害外来治療患者の就労状況について—MUSUBI—J研究より—

近野 祐介 産業医科大学医学部精神医学教室

S10-4 双極性障害患者の外来処方薬と患者プロフィール

徳満 敬大 獨協医科大学精神神経医学講座

精神科プレジジョンメディスンとPGx
Precision Medicine and PGx in Psychiatry

オーガナイザー・座長：加藤 正樹 関西医科大学医学部医学科精神神経科学講座
座長：池田 匡志 藤田医科大学医学部精神神経科学

日本の精神科遺伝、薬理遺伝関連研究は世界から遅れをとっており、本学会会員もこのフィールドの現状をキャッチアップ出来ている人は多くないと感じます。

AI技術の発展とともに、臨床精神薬理に大きく関わる分野であり、本学会が日本の中心の一つを担うべく、教育、底上げを継続していきたいと思えます。

S11-1 精神疾患のプレジジョン・メディスン—今できること、できないこと、なすべきこと

高田 篤 横浜市立大学大学院医学研究科遺伝学

S11-2 プレジジョン・メディスンに向けた精神科薬理遺伝の現状
～研究成果と臨床とのギャップ

池田 匡志 藤田医科大学医学部精神神経科学

S11-3 プレジジョン・メディスンに向けた精神科薬理遺伝の現状

吉田 和生 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 /
Pharmacogenetics Research Clinic, Centre for Addiction and Mental Health

指定発言 加藤 正樹 関西医科大学医学部医学科精神神経科学講座

プラセボ反応をどう理解し、どのように克服するのか

How do you understand and overcome a placebo response?

オーガナイザー・座長：古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座
座長：内田 裕之 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

本来、薬物としての効果はない錠剤などを「特別の効果をもつ薬である」と伝えて被験者に与えると、暗示的な作用が働いて、説明された通りの効果が得られることがある。このような効果をプラセボ効果と呼び、その偽薬を“プラセボ(Placebo)”と呼んでいる。新薬の臨床試験では、プラセボ群に対してその効果を評価することにより、科学的に薬の効力を証明することが行われている。これまでの臨床試験ではプラセボ投与群における治療反応率が高いため、実薬で有意差が得られず、世に出てこなかった薬物が多い。プラセボ効果は、臨床試験において薬効の正確な評価を行う上での妨げになることから、長い間厄介者扱いされてきた。しかしながら患者側から見れば治療効果を得たことに変わりない。プラセボ反応とは何なのか、また、プラセボ反応する予測因子はあるのか、さらにはこのプラセボ反応を臨床にどのように応用するべきなのかを議論していきたい。

S12-1 抗精神病薬の臨床試験におけるプラセボ反応の歴史

久保 馨彦 鶴が丘ガーデンホスピタル

S12-2 統合失調症患者のプラセボ反応を予測する

熊谷 迪亮 川崎市立川崎病院 精神科

S12-3 精神疾患罹患者自身のプラセボ対照比較試験に対する姿勢

菅原 典夫 獨協医科大学精神神経医学講座

S12-4 1990年代以降、抗うつ剤臨床試験におけるプラセボ反応率は変化していない

古川 壽亮 京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野

過感受性精神病と治療抵抗性統合失調症、そして遅発性ジスキネジアとの関係

The relationship between supersensitivity psychosis, treatment resistant schizophrenia, and tardive dyskinesia

オーガナイザー・座長：渡邊衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

1970年代にChouinardによって提唱された「ドパミン過感受性精神病」がここ数年注目され、我々が日常臨床で対応に難渋する治療抵抗性統合失調症例、減薬・中断、あるいは変薬時の精神病症状の増悪、さらには遅発性ジスキネジアまでもが、この概念で説明可能とされている。

本シンポジウムでは、改めてこの概念に注目し、この概念に再び焦点を当てられた千葉大学伊豫教授を初めとして、ドパミン関連研究における我が国の第一人者達に集まっていただき、様々な角度からこの概念を検証することとした。

- S13-1** **ドパミン過感受性精神病の概念、治療抵抗性統合失調症との関係**
伊豫 雅臣 千葉大学大学院医学研究院精神医学 / 社会精神保健教育研究センター
- S13-2** **治療抵抗性統合失調症におけるドパミン過感受性精神病の病態**
小田 靖典 千葉大学大学院医学研究院精神医学教室
- S13-3** **遅発性ジスキネジアと過感受性精神病**
竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
- S13-4** **ドパミンD2受容体の間歇的な遮断は“ドパミン過感受性”予防に良い？**
内田 裕之 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

クロザピンのTDMの現状と今後の課題

Current status and future issues of TDM for clozapine

オーガナイザー・座長：菊池 結花 秋田大学医学部神経運動器学講座精神科学分野
座長：稲田 健 東京女子医科大学医学部精神医学講座

Clozapine (CLZ) は治療抵抗性統合失調症患者にとって唯一残された薬物治療上の選択肢である。海外のガイドラインにおいては生化学検査にあわせてCLZ服用時にTDMを行うことが推奨されており、その推奨ランクは最も高いAランクである。しかし、日本においてはCLZ血中濃度に関する情報が不足しており、薬物動態学-薬力学 (PK-PD) 理論に基づく投与設計が臨床においてほとんど展開されていないのが現状である。したがって、CLZをより有効に使用するためにTDMを積極的に実施し、PK-PD理論を考慮した個別化投与設計を確立することが重要と考える。本シンポジウムではクロザピンのTDMの現状について紹介し、さらに将来的に集積したデータをもとに、クロザピンが特定薬剤治療管理料の算定薬物となることを目標とした今後の展望についても述べたい。

S14-1 クロザピン血中濃度測定法の開発と臨床応用

赤嶺由美子 秋田大学医学部附属病院薬剤部

S14-2 クロザピン血中濃度が1000ng/ml以上の高値を示した治療抵抗性統合失調症の症例群の検討

木田 直也 国立病院機構琉球病院

S14-3 クロザピン血中濃度と認知機能との関連

高橋 正洋 社会福祉法人杏嶺会上林記念病院

S14-4 クロザピンの最適使用を目指すTDMの取り組み

北川 航平 岡山県精神科医療センター臨床研究部

指定討論者 村上 優 国立病院機構さいがた医療センター

指定討論者 来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

スポーツと臨床精神薬理学

Sports and clinical psychopharmacology

オーガナイザー・座長：小澤 寛樹 長崎大学医学部精神神経科学教室
座長：堀 輝 産業医科大学医学部精神医学教室

来年度に迫る東京五輪に向け、本国ではスポーツと健康が注目を集めている。米国などではアスリートに対する精神医学的トレーナーが活躍している。一方、うつ病、認知症などその精神疾患の改善・予防には睡眠、食事・栄養とともに運動・スポーツの有用性が多い報告より支持されてきている。そこで本シンポジウムでは発達症、うつ病、統合失調症の視点から具体的な対応を試みている演者よりその詳細を発表いただく。

S15-1 発達症とスポーツ

米澤 健 長崎大学医学部精神神経科学教室 / 紅葉病院薬剤部

S15-2 運動の勤労者うつ病における役割～そのメカニズム及び薬理学的な視点から～

堀 輝 産業医科大学医学部精神医学教室

S15-3 統合失調症とスポーツスポーツが統合失調症患者を変え、支援者・社会を変えるー

佐々 毅 新検見川メンタルクリニック

高齢者の精神疾患に対する薬物療法Up-to-Date

Up-to-Date on Pharmacotherapy for Psychiatric Disorders of the Elderly

オーガナイザー・座長：馬場 元 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学
座長：上野 修一 愛媛大学大学院医学系研究科分子・機能領域精神神経科学講座

急速にすすむ我が国の高齢化を背景に、精神科の臨床現場においても高齢患者の診療にあたる機会は増えている。高齢患者に対する薬物療法においては、加齢に伴う薬物代謝の変化や身体合併症、併用薬剤を考慮するのはもちろんだが、それぞれの精神疾患における高齢者ならではの臨床的特徴によって、薬物療法の戦略がより若い世代の同じ疾患に対するものと異なる場合がある。本シンポジウムでは高齢者の発達障害、うつ病(特に精神病症状を伴ううつ病)、双極性障害(特に双極性うつ病)そして認知症(特にアルツハイマー型認知症)の薬物治療について、それぞれのエキスパートに最新の知見と実臨床に役立つ情報を紹介していただく。

S16-1 高齢者の発達障害—診断と治療

上村 直人 高知大学医学部精神科

S16-2 精神病症状を伴う高齢者のうつ病の薬物療法

伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

S16-3 高齢者の双極性障害について

仁王進太郎 東京都済生会中央病院

S16-4 アルツハイマー型認知症の疾患修飾薬の現状と展望

馬場 元 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学 / 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

日本臨床精神神経薬理学会 2019年
ポール・ヤンセン賞受賞講演、学会奨励賞および Young Researcher 賞

CNPポール・ヤンセン賞受賞講演

10月11日(金) 13:40-14:30 第13会場(501)

座長：染矢 俊幸 一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会理事長 /
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

- PJ1 Glutamatergic Neurometabolite Levels in Patients with Ultra-Treatment-Resistant Schizophrenia: A Cross-Sectional 3T Proton Magnetic Resonance Spectroscopy Study
岩田 祐輔 山梨大学医学部精神神経科学講座
- PJ2 Genome-wide association study detected novel susceptibility genes for schizophrenia and shared trans-populations/diseases genetic effect
池田 匡志 藤田医科大学医学部精神神経科学

CNP学会奨励賞

※講演はありません

- EN1 Model-Guided Antipsychotic Dose Reduction in Schizophrenia: A Single-Blind Randomized Controlled Trial
小澤 千紗 慶應義塾大学医学部精神・神経学教室
- EN2 Does relapse contribute to treatment resistance? Antipsychotic response in first- vs. second-episode schizophrenia
竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神・神経学教室
- EN3 Survey of anticonvulsant drugs and lithium prescription in women of childbearing age in Japan using public national insurance claims database of Japan
吉村 健佑 千葉大学医学部精神医学教室

CNP Young Researcher賞

※講演はありません

- YR Effects of ABCB1 gene polymorphisms on autonomic nervous system activity during atypical antipsychotic treatment in schizophrenia
服部 早紀 横浜市立大学医学部精神医学教室

日本臨床精神神経薬理学会 海外研修員帰朝講演

CNP海外研修員帰朝講演

10月11日(金) 13:40-14:30 第13会場(501)

座長：染矢 俊幸 一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会理事長 /
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

- AB プラセボで改善するうつ病患者の生物学的基盤の解明
櫻井 準 Depression Clinical and Research Program, Department of Psychiatry, Massachusetts General Hospital, USA / 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

JSCNP

ポール・ヤンセン賞、学会奨励賞、
Young Researcher 賞、
海外研修員帰朝講演

一般演題 (口演)

口演1

10月11日(金) 8:40 ~ 10:20 第9会場(405)

座長：高橋 一志 東京女子医科大学神経精神科

- 1-1 クロザピンの超緩徐増量と安全性の関連：単施設過去起点コホート研究
塚原 優 岡山県精神科医療センター
- 1-2 クロザピン治療におけるHLA-B*59:01遺伝子検査の費用対効果を用いた有用性の検討
二宮 光平 藤田医科大学病院精神神経科学
- 1-3 クロザピンと好酸球性肺炎の関連性：
日本人の治療抵抗性統合失調症患者を対象とした後方視的検討
中村 優 医療法人社団更生会草津病院内科
- 1-4 日本人統合失調症患者でのクロザピンと活性代謝物ノルクロザピンの血中濃度および
血中濃度比の推移モデルの構築
森田 和弥 熊本大学薬学部薬物治療学分野

口演2

10月11日(金) 8:40 ~ 10:20 第10会場(406)

座長：西口 直希 せせらぎ心療クリニック

- 2-1 双極性うつ病におけるラモトリギン治療反応性と抗精神病薬併用量との関連について
廣瀬 智之 近畿大学医学部精神神経科学教室 / 医療法人 爽神堂七山病院
- 2-2 ラメルテオンと高照度光療法により抗うつ薬の減量に至った概日リズム睡眠障害を伴った
うつ病の1例
北林 佳晃 獨協医科大学精神神経医学講座
- 2-3 うつ病治療において何が患者満足度に関連する因子なのか？大規模インターネット調査の
再解析
浅井 宏友 杏林大学医学部精神神経科学教室
- 2-4 高用量のフルボキサミンにアリピプラゾールの増強療法を行ったことで速やかに寛解に
至った重症強迫性障害の一例
三好 幸代 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

口演3

10月11日(金) 10:30 ~ 12:10 第8会場(404)

座長：稲垣 中 青山学院大学教育人間科学部

- 3-1 統合失調症急性増悪時における服薬アドヒアランスと薬物治療ストラテジー
田中 康平 地方独立行政法人山梨県立北病院
- 3-2 日本において統合失調症の持効性注射剤処方に対する入院時出来高算定が導入された場合の
医療経済効果評価
桐谷 麻美 ヤンセンファーマ株式会社
- 3-3 統合失調症患者における幻聴体験の概日リズム：時間薬理学への可能性
小泉 輝樹 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室 / 国立病院機構下総精神医療センター精神科

JSCNP

一般演題 (口演)

O3-4

「重度かつ慢性」患者への包括支援実践ガイドに記載された統合失調症薬物療法ガイドの作成と臨床的位置づけ

宮田 量治 山梨県立北病院

□演4

10月11日(金) 10:30 ~ 12:10 第9会場(405)

座長： 兼田 康宏 岩城クリニック心療内科・精神科

O4-1

精神症状の増悪を繰り返す統合失調症患者に対して持続性注射剤及びasenapineが症状改善に寄与した1例

井上 悟 浅井病院

O4-2

うつ病に併発した緊張型頭痛の患者に対するSNRIとSSRIの効果を検討するベンラファキシンとエスシタロプラムとの比較検討

井上 悟 浅井病院

O4-3

単科精神病院における深部静脈血栓症を併発した重症うつ病へのmECT

阿部 恭久 八代更生病院

O4-4

ECTにおける有効けいれん発作を包括的に評価するSeizure quality categoriesを用いた後方視研究-導入麻酔薬が発作の質に及ぼす影響について-

青木 宣篤 関西医科大学総合医療センター

□演5

10月11日(金) 10:30 ~ 12:10 第10会場(406)

座長： 新開 隆弘 産業医科大学医学部精神医学教室

O5-1

統合失調症を発症した先天性QT延長症候群患者にアリピプラゾールを投与した1例

池田 仁 滋賀医科大学精神医学講座

O5-2

統合失調症のD-細胞仮説は、進行性病態の分子基盤を説明する

池本 桂子 いわき市医療センター精神科(リエゾン科)

O5-3

抗精神病薬未服薬の早期精神病における血清中グルタミン酸代謝物の解析

田形 弘実 東邦大学医学部精神神経医学講座

O5-4

クロザピン中止例の1年間の経過：後方視的診療録調査

渡邊茉衣子 山梨県立北病院

□演6

10月12日(土) 8:40 ~ 10:20 第10会場(406)

座長： 中村 明文 あかりクリニック

O6-1

治療抵抗性の強迫症状に電気けいれん療法が有効であった2例

渡辺 杏里 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

O6-2

日本人患者に対するCYP2D6遺伝子多型がvenlafaxineおよびO-desmethylvenlafaxineの鏡像異性体代謝に及ぼす影響について

佐々木太郎 獨協医科大学精神神経医学講座

O6-3

抗うつ薬服用患者のうつ病心理教育および理解と処方内容；抗うつ薬について

富田 哲 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

O6-4

特発性大脳基底核石灰化症を有する双極性障害患者の臨床的特徴について：症例報告の系統的レビュー

石飛 信 医療法人社団東京愛成会高月病院

口演7

10月12日(土) 10:30 ~ 12:10 第9会場(405)

座長：木代 眞樹 きしろメンタルクリニック

- O7-1** セロトニン症候群と悪性症候群との鑑別が困難であった1症例
鍋島 賢大 特定医療法人佐藤会弓削病院
- O7-2** 薬物相互作用と腎機能低下によりリチウム中毒を反復した一例
大和田 環 獨協医科大学精神神経医学講座
- O7-3** 母集団薬物動態—薬力学解析によるパロキセチンの個別化投与設計への試み
森田 和弥 熊本大学薬学部薬物治療学分野
- O7-4** 皮膚掻痒症：精神医学的鑑別診断と身体的基礎疾患
齋尾 武郎 フジ虎ノ門整形外科病院精神科、
SMBC日興証券健康管理室

口演8

10月12日(土) 10:30 ~ 12:10 第10会場(406)

座長：安川 節子 熊本ファミリーメンタルクリニック

- O8-1** Clozapine 治療に関連して生じた肺炎の2例
瀬戸 恵理 山梨県立北病院
- O8-2** うつ病と線維筋痛症にデュロキセチンとミルタザピンの併用が著効した1例
横山 宜史 獨協医科大学精神神経医学講座
- O8-3** 周期的な緊張病性昏迷に炭酸リチウムが著効した統合失調症の1例
佐藤 由英 獨協医科大学精神神経医学講座
- O8-4** 抗うつ剤投与後に末梢性浮腫を繰り返した治療抵抗性うつ病症例
手銭 宏文 産業医科大学医学部精神医学教室

JSCNP

一般演題
(口演)

ポスター発表

10月11日(金) 13:40 ~ 15:10 ポスター会場(福岡国際会議場 2階 多目的ホール)
10月12日(土) 16:40 ~ 17:25 ポスター会場(福岡国際会議場 2階 多目的ホール)

ポスター 1

10月11日(金) 13:40 ~ 15:10

座長：竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

P1-1 健康保険データベースを用いた認知症患者における治療実態調査
山戸健太郎 武田薬品工業株式会社ジャパンメディカルオフィス

P1-2 精神障害患者の入院時社会機能と健康関連QOL
稲垣 中 青山学院大学教育人間科学部 / 青山学院大学保健管理センター

P1-3 ステロイド性抗炎症薬内服者の向精神薬処方パターン：本邦のレセプトデータ解析
彌富 泰佑 川崎市立川崎病院精神・神経科

P1-4 高齢者における経管栄養から経口栄養への回復と服用薬剤との関連性を検討した長期観察研究
鬼木健太郎 熊本大学大学院生命科学研究部薬物治療学分野

ポスター 2

10月11日(金) 13:40 ~ 15:10

座長：岸本泰士郎 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

P2-1 高齢女性統合失調症患者に対するbrexpiprazoleの忍容性の検討
青木 岳也 医療法人扶老会扶老会病院

P2-2 急性期統合失調症におけるbrexpiprazoleの有効性
一瀬 瑞絵 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座 / 公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院

P2-3 DIEPSSの因子構造をもとに錐体外路症状を再考する
一向精神薬処方に関するアジア国際共同研究から
久保田智香 国立精神・神経医療研究センター病院

P2-4 精神科慢性期病棟入院患者の骨密度についての検討
川口 要 相州病院

ポスター 3

10月11日(金) 13:40 ~ 15:10

座長：高木 博敬 医療法人大和会西毛病院

P3-1 中止に至ったクロザピン症例の実態調査
大久保由衣 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 薬剤科

P3-2 統合失調症における低ナトリウム血症と関連する因子について
福井 直樹 新潟大学医歯学総合病院精神科

P3-3 統合失調症における社会機能と主観的ウェルビーイングの変化に対する社交不安症状の関与
根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座

P3-4 機械学習を用いた高齢統合失調症患者における抗精神病薬のドーパミン受容体占有率と疾患重症度による認知障害分類
楠戸 恵介 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

JSCNP

一般演題(ポスター)

座長：鈴木 利人 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック

- P4-1** 自閉スペクトラム症における過去が現在の意思決定に与える影響について
藤野 純也 昭和大学発達障害医療研究所 / 京都大学大学院医学研究科精神医学教室
- P4-2** 高用量セルトラリンとラモトリギンの併用療法が奏功した重症強迫症の1症例
渡邊 崇 桂慈会菊池病院 / さくら・ら心療内科 / 獨協医科大学精神神経医学講座
- P4-3** 外来における児童・青年期ADHD患者に対する処方状況調査
木本啓太郎 東海大学医学部専門診療学系精神科学
- P4-4** 小児期の注意欠如多動性障害(ADHD)患者を対象にしたチペピジンヒベンズ酸塩の有効性を検討するためのプラセボ対照二重盲検比較試験
佐々木 剛 千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部 / 千葉大学大学院医学研究院 精神医学

座長：菅原 典夫 獨協医科大学精神神経医学講座

- P5-1** 抗精神病薬誘発性アカシジアに対するガバペンチンエナカルビルの有効性：探索的試験
竹島 正浩 秋田大学医学部精神科学講座
- P5-2** 古い頭部CT画像を用いた統合失調症患者の縦断的脳体積推移の検証
山中 浩嗣 千葉県精神科医療センター精神科
- P5-3** Blonanserin テープ製剤による適用部位関連有害事象の検討
嶋 泰一 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部
- P5-4** クロザピン血漿中濃度高値での治療中にけいれん発作が出現した治療抵抗性統合失調症の一例
渡辺 研弥 福島県立医科大学附属病院薬剤部

座長：岸田 郁子 横浜市立大学医学部精神医学 / 清心会藤沢病院

- P6-1** 血中サイトカイン濃度はミルタザピンとSSRIの治療反応に異なって寄与し得るか—GUNDAM studyより—
阿竹 聖和 産業医科大学医学部精神医学教室
- P6-2** うつ病治療予測マーカーとしての血清コルチゾール値の可能性
常山 暢人 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
- P6-3** 双極性障害治療における情動安定剤に併用される抗精神病薬と抗うつ薬の特性について—MUSUBIプロジェクトより—
古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座 / 日本臨床精神神経薬理学会
- P6-4** 男性うつ病患者と血清estradiol値との関連
有波 浩 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

座長： 稲田 健 東京女子医科大学医学部精神医学講座

- P7-1** 難治性うつ病性障害に対するラモトリギン強化療法患者においてABCG2 C421Aがラモトリギン血漿濃度に与える影響
鈴木 毅 琉球大学医学部附属病院薬剤部
- P7-2** 難治性うつ病性障害におけるラモトリギン強化療法の治療反応性とUGT1A4 及びUGT2B7遺伝子多型との関連
香川 祥子 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座
- P7-3** うつ病患者におけるSSRIとMIRの治療効果予測因子としてのmiRNA発現量の有用性～Genotype Utility Needed for Depression Antidepressant Medication (GUNDAM) studyより～
緒方 治彦 関西医科大学精神神経科学教室 / 社会福祉法人青祥会セフィロト病院
- P7-4** 難治性うつ病性障害に対するlamotrigine強化療法の治療反応性とABCG2 C421A遺伝子多型との関連
中村 明文 琉球大学大学院精神病態医学講座 / あかりクリニック

座長： 鈴木 昭仁 山形大学医学部精神医学講座

- P8-1** 治療抵抗性の精神病症状を伴う躁状態にトピラマート併用療法が奏効した双極性障害の1例
後藤 純一 熊本県立こころの医療センター
- P8-2** ペランパネル投与によりてんかん患者の睡眠障害の改善を示した一例
高野 謹嗣 関西医科大学総合医療センター精神神経科学教室
- P8-3** 幼少期の虐待や性格傾向とmiRNA発現量の関連及び薬物療法の治療効果予測因子の探索～Genotype Utility Needed for Depression Antidepressant Medication (GUNDAM) studyより～
船槻 紀也 関西医科大学精神神経科学講座
- P8-4** うつ病増強療法の増強期間に関するシステマティックレビュー
加藤 英生 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

座長： 嶽北 佳輝 関西医科大学精神神経科学教室

- P9-1** 大うつ病性障害の治療における抗精神病薬の単剤療法、抗うつ薬と抗精神病薬の併用療法のリスク/ベネフィットバランス：ランダム化比較試験の系統的レビューとメタ解析
萩 勝彦 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部
- P9-2** 小児双極性障害うつ患者の治療におけるルラシドン及びその他の非定型抗精神病薬の有効性、安全性：系統的レビューとネットワークメタ解析
萩 勝彦 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部
- P9-3** 成人統合失調症患者に対するルラシドンの安全性：投与タイミングと有害事象発現リスクの関係解析
萩 勝彦 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部

JSCNP
一般演題(ポスター)

P9-4

抗精神病薬による血中プロラクチン濃度変化の個人差

南畝 晋平 兵庫医療大学薬学部

ポスター 10

10月12日(土) 16:40 ~ 17:25

座長: 住吉 太幹 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

P10-1

パリペリドンパルミチン酸エステル の有用性における検討

岡田三知那 三枚橋病院

P10-2

統合失調症患者に対する抗精神病薬の抗うつ作用の検討:
ランダム化比較試験の系統的レビューとメタ解析

三浦 至 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

P10-3

関西医科大学総合医療センターにおけるアセナピン処方実態の調査

柳田 知世 関西医科大学精神神経科

P10-4

「ドパミンD2受容体部分アゴニストbrexpiprazoleへの切り替えの検討 第2報」
—統合失調症患者を対象としたbrexpiprazoleの長期投与試験における切り替え例に関する追加解析—

石郷岡 純 CNS薬理研究所

ポスター 11

10月12日(土) 16:40 ~ 17:25

座長: 小野 久江 関西学院大学文学部総合心理科学科

P11-1

若年発症統合失調症患者の治療における非定型抗精神病薬の有益性/有害性:
系統的レビューとメタ解析

萩 勝彦 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部

P11-2

成人統合失調症患者の治療における抗精神病薬の代謝関連パラメータへの影響:
系統的レビューとメタ解析

萩 勝彦 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部

P11-3

若年発症統合失調症患者の治療における非定型抗精神病薬の有効性:
系統的レビューとメタ解析

萩 勝彦 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部

P11-4

若年発症統合失調症患者の治療における非定型抗精神病薬の安全性・忍容性:
系統的レビューとメタ解析

萩 勝彦 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部

P11-5

抗精神病薬多剤併用療法が日本人統合失調症患者の喫煙に与える影響

鈴木雄太郎 医療法人敬愛会 末広橋病院

ポスター 12

10月12日(土) 16:40 ~ 17:25

座長: 奥川 学 関西記念病院

P12-1

Lamotrigineによる難治性うつ病性障害強化療法の治療反応性とAMPA受容体
GRM2遺伝子多型との関連性について

永井 五洋 琉球大学大学院精神病態医学講座

JSCNP

一般演題(ポスター)

- P12-2 大うつ病性障害患者におけるミルタザピンと選択的セロトニン再取り込み阻害薬の治療反応とABCB1遺伝子多型の関連
砂田 尚孝 関西医科大学精神神経科学教室
- P12-3 精神科病院における双極性障害に対する薬物の使用状況調査
阿部 恭久 八代更生病院
- P12-4 ベンゾジアゼピン系薬剤の減量化がうつ病に与えるリスクとベネフィットに関する予備的研究
越川 陽介 関西医科大学精神神経科学教室

ポスター 13

10月12日(土) 16:40 ~ 17:25

座長： 上村 誠 溝の口メンタルクリニック

- P13-1 双極性障害うつ症状の治療における非定型抗精神病薬の単剤療法、および気分安定薬との併用療法の有効性：プラセボ対照ランダム化比較試験の系統的レビューとメタ解析
野坂 忠史 大日本住友製薬株式会社
- P13-2 双極性障害うつ症状の治療における非定型抗精神病薬の単剤療法、および気分安定薬との併用療法の安全性・忍容性：プラセボ対照ランダム化比較試験の系統的レビューとメタ解析
野坂 忠史 大日本住友製薬株式会社
- P13-3 双極性障害うつ症状の治療における非定型抗精神病薬の単剤療法、および気分安定薬との併用療法のリスク・ベネフィット評価：プラセボ対照ランダム化比較試験の系統的レビューとメタ解析
野坂 忠史 大日本住友製薬株式会社
- P13-4 統合失調症患者における抗精神病薬持効性注射剤中断者のその後の処方：診療録調査
浅野 圭介 公益財団法人井之頭病院精神科 / 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

ポスター 14

10月12日(土) 16:40 ~ 17:25

座長： 香月あすか 産業医科大学医学部精神医学教室

- P14-1 ブロナンセリンの慢性投与はラット海馬の脳内炎症を軽減させる
村田 雄介 福岡大学薬学部臨床薬物治療学
- P14-2 治療抵抗性統合失調症患者を対象としたクロザピンの製造販売後調査結果(患者背景別の安全性、有効性の解析)
鳥山 和宏 ノバルティス ファーマ株式会社メディカル本部
- P14-3 パリペリドンパルミチン酸エステル(ゼプリオン®)の製造販売後の医薬品安全性監視活動において報告された副作用についての報告
若松 昭秀 ヤンセンファーマ株式会社
- P14-4 クロザピン用グラスゴー抗精神病薬副作用評価尺度(GASS-C)日本語版の信頼性と妥当性の検討
北川 航平 岡山県精神科医療センター臨床研究部

JSCNP

一般演題(ポスター)

座長：竹内 賢 星ヶ丘病院

- P15-1** 統合失調症患者を対象としたAsenapine舌下錠6週間投与時の使用実態下における適正使用を踏まえた安全性の検討 - 使用成績調査の中間報告より -
相宗沙也香 Meiji Seikaファルマ株式会社メディカルサイエンス推進室
- P15-2** 経頭蓋磁気刺激による統合失調症患者の皮質抑制障害の検討
宮澤 惇宏 千葉大学医学部附属病院精神神経科
- P15-3** 慢性期統合失調症患者の抗精神病薬の減量による認知機能・モノアミン代謝産物への影響について
堀越 翔 医療法人ほりこし心身クリニック / 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
- P15-4** 非定型抗精神病薬の急性期統合失調症患者に対する認知機能障害改善効果と改善予測因子
堀 輝 産業医科大学医学部精神医学教室

座長：新開 隆弘 産業医科大学医学部精神医学教室

- P16-1** 高齢統合失調症患者に対するbrexpiprazoleの長期の有効性及び安全性の検討
稲田 健 東京女子医科大学
- P16-2** うつ病患者のベースライン症状クラスタリングによる患者層別治療反応解析：ベンラファキシン徐放性製剤臨床試験データを用いたPatient-level Meta-analysis
加藤 正樹 関西医科大学医学部医学科精神神経科学講座
- P16-3** うつ病患者における身体的特徴及び症状の主観的捉え方が治療反応に与える影響の検討—GUNDAM studyより—
檜原 彩乃 関西医科大学医学部精神神経科学講座
- P16-4** パリペリドンとリスペリドンの自律神経活動へ与える影響の比較
服部 早紀 横浜市立大学医学部精神医学教室

座長：菊池 俊暁 慶應義塾大学医学精神・神経科学教室

- P17-1** 統合失調症と血清cortisol値、IGF-1値との関連
有波 浩 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
- P17-2** 抗精神病薬持効性注射剤使用中の統合失調症患者における、活動時間の増減と認知機能や社会機能の関連の検討
内藤みなみ 関西医科大学精神神経科学教室
- P17-3** 4種の第二世代抗精神病薬が心電図QT間隔に与える影響の差とその背景
渡邊 純蔵 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野 / 医療法人社団敬会 白根緑ヶ丘病院
- P17-4** 中性脂肪値と抗精神病薬との関連について
小野 信 新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座

座長： 大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科

P18-1 一酸化炭素中毒患者における¹²³I-FP-CIT SPECTを用いた線条体ドパミントランスポータの画像評価

能登 契介 山形大学医学部精神医学講座

P18-2 アカンプロサートカルシウム処方歴のあるアルコール依存症患者の通院継続因子

佐藤 英明 八代更生病院

P18-3 電気けいれん療法に関連した有害事象の臨床疫学的調査

綾仁 信貴 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

P18-4 統合失調症患者における生活習慣病罹患率と多剤併用療法との関連

須貝 拓朗 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野